

目次

人格という「形」 ——法的概念を受容するということ	嘉戸一将 (1)
国文学史の誕生	千葉真也 (21)
近代文学の「学」としての ——「漱石研究」のこと	鳥井正晴 (35)
国文学者田中重太郎の「枕草子」研究	鈴木徳男 (55)
沖縄における地域語と「標準語」の間	長谷川精一 (75)
浄土真宗における聖典の歴史と意義	佐々木隆晃 (91)
家政と家政学 ——明治期の文献整理から	永藤清子 (103)
食の近代化と栄養学	太田美穂 (117)
近代化と都市景観 ——公共空間形成をめくって	新屋千樹 (135)

近代日本における「音楽」と「音楽学」

黒坂俊昭

(159)

近代化による音楽界の変容

小野真

(175)

あとがき

(189)